



東日本大震災から10年

～東松島市からの手紙～

宮城県東松島市は、仙台市の北東に位置し、日本三景の一つである松島と面する人口約39,000人の都市です。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、死者・行方不明者が1,133人にも上り、甚大な被害をもたらしました。

熊本県では、県庁と市町村職員による合同支援チーム「チーム熊本」を立ち上げ、約9か月間で延べ523人の職員を派遣し、氷川町からも職員8人が東松島市の復興を支援しました。

震災から10年となる今回、東松島市の現状を皆さんにお伝えします。

宮城県東松島市は、仙台市から北東に約35kmの距離にあり、夏は海風により比較的涼しく、冬も温暖で降雪も少ないなど、一年を通じて過ごしやすい気候です。また、日本三景松島の一角を成す「奥松島」や日本三大溪の一つ「嵯峨溪」を有し、四季折々の変化に富んだ美しい自然景観が魅力です。海苔やカキ、米、いちごなどの多彩な食材に恵まれており、航空自衛隊松島基地のブルーインパルスも全国的に有名です。

東松島市は、平成23年3月11日に三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震（マグニチュード9.0）で、震度6強を記録し甚大な被害を受けました。大規模な津波が発生し、野蒜地区では15時40分頃に10.35mの高さの津波（第一波）が観測され、死者1,109人（東松島市民、市外での死者含む）、行方不明者24人の尊い命が失われました。津波による浸水面積は約37km²で、市街地の約65%が浸水し、被災自治体の中で最大となっており、市内の避難所にはピーク時で約15,000人の住民が避難を余儀なくされました。市内では、電気水道はすべて使用不能。固定電話・携帯電話も通話不能となり、回復には一部地域を除いておおむね1か月程度かかりました。

震災以降は、「東松島一心」を掲げ、一日も早い復興を実現するために手探りで奔走し続けました。その結果、被災者の住まいの確保やインフラの整備、基幹産業である農業・漁業の復旧

事業などは計画どおりに進捗してきました。

このように復興が順調に進んだのは、国・県の厚い財政支援とともに、全国の自治体から派遣いただいた多くの職員の皆さんの協力、さらには多くの国内外からの温かい応援があったからであり、改めて深く感謝を申し上げます。

市内で震災被害が大きかった大曲浜地区（写真①）は、産業用地として生まれ変わり、その一角には、矢本海浜緑地公園およびパークゴルフ場として整備され（写真②・③）、地域の憩いの場として多くの笑顔が生まれています。また、当地域で生活していた住民を中心に、市内最大の集団移転団地「あおい団地」が整備され（写真④）、全580世帯（戸建て住宅273世帯、災害公営住宅307世帯）の新たな生活がスタートしています。



①



②



③



④

野蒜地区では、J-R仙石線の野蒜駅と東名駅が被災（写真⑤・⑥）し、新たに線路ごと高台に移転され、集団移転地「野蒜ヶ丘団地」（写真⑦）が整備されました。旧野蒜跡地は、震災復興伝承館として生まれ変わり、震災10年の歩みをパネルなどで紹介するなど震災の記憶と教訓を後世につなぐ拠点となっています。施設内には、震災後に全国から届けられた千羽鶴を活用して制作した作品「千分の二羽鶴 東松島2020」を展示（写真⑧）。東京五輪エンブレムをデザインした野老朝雄さんや市民らにより制作された作品は、光を当てると透明の立方体に封入された色とりどりの折り鶴が浮かび上がります。同敷地内には、震災復興祈念公園が建設され、祈りの場として「震災の教訓」を後世に伝承しています。昨年3月19日には、五輪聖火の到着と鎮魂の祈りを竹あかりで迎えるイベントが開催され、震災により市内で亡くなった方および行方不明者と同じ1,133本の竹あかりで照らしました（写真⑨）。



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

野蒜地域周辺には、奥松島運動場が移転建設され（写真⑩・⑪）、全天候型野球場や日本サッカー協会公認の全天候型多目的グラウンド、子ども広場などが整備され、スポーツ健康都市宣言した、本市の新たな運動拠点として賑わいを見せています。（写真⑫）



⑩

ブルーインパルスが5色のカラーズモークで彩って祝福し、日本中が注目する歴史的な日となりました。国内外の皆さんからの温かい応援を頂き、「復興のモデル市」をめざして様々な取り組みを進めた結果、復興・復興は順調に進捗しております。復興に係るハード事業は令和2年度末で完遂する予定であり、復旧・復興も次の段階に差し掛かろうとしております。これからは、被災者の「こころの復興」やコミュニティの再生などを最優先に取り組んで参ります。また、昨年6月に被災3県の自治体で唯一本市が選定された「SDGs未来都市」および将来に向けた「地方創生」の理念に沿って、「住み続けられ持続・発展する東松島市」を目指して全力で取り組み、今までご支援を頂いた多くの皆さんのご縁と絆をいつまでも大切に、共に未来へ歩んで参ります。



⑪



⑫



⑬